

「実践者のための」論文の書き方コーチング2018夏」のご案内

《趣旨》

実践者による優れた実践の論文文化を促進するために、昨年度より「実践者のための」論文の書き方コーチング」を立ち上げました。優れた実践が公開されることなく、現場にうずもれていることが多々あります。実践を記録（実践研究論文や実践研究ノート等）として残し、またその成果を広く学会で共有することは、実践を重視してきた国際理解教育学会の発展にとって極めて重要であると考えています。学校現場等の実践者から投稿された論文については、実践内容は意義深いものであっても、論文としての作法や体裁が充分整っていないために、掲載に至らないケースがあります。また、論文としての作法や体裁がよくわからないため、論文を執筆・投稿することを躊躇われる方も多くいらっしゃると思います。

紀要編集委員会は、実践者の会員の皆様のそうした不安を少しでも軽減し、教育実践を研究論文にするための、お手伝いをいたします。今回は、昨年の夏（東京）、今年の研究会（6月、宮城教育大学）に続く第3回目であり、初めての関西での実施となります。西日本の実践者の方々が参加しやすいよう、夏季休業中の京都での開催の運びとなりました。下記の要領で開催いたします。積極的なご参加をお待ちしています。（内容は、第1回目、第2回目と共通する内容も含まれています。）

《内容》 学校現場等の実践者向けに、国際理解教育についての実践研究論文・ノートの書き方をコーチングします。

《対象》 主に幼・小・中・高・特別支援学校の教員等の実践者である学会員

《日程》 2018年8月19日（日）14:00～16:00

（途中退室可）

《会場》 TKP 京都四条烏丸会議室 第2会議室

〒600-8006 京都市下京区四条通り柳馬場西入ル
立売中之町104 井門四条ビル 7F

- 阪急京都線 烏丸駅 13番出口 徒歩 15秒
- 京都市営烏丸線 四条(京都市営)駅 13番出口 徒歩 15秒

《参加費》 無料

《当日の流れ》



1. 実践を研究論文にするために—論文の作法や体裁，最低限抑えるべき条件について—	
2. 実践者が実践論文を書く意味	
3. 実践研究論文・ノートを査読する視点	
4. 査読演習（実践者が実際に書いたものについての改善方法等）	
○「実践研究論文」コーチング希望者 （投稿済論文を使つての査読演習）	○「自作論文」コーチング希望者 （自作論文を使つての査読演習）
(1) 投稿経験談	(1) 自作論文の相互査読
(2) 個人で査読	(2) 意見交換
(3) グループで意見交換、査読者の見解	(3) 編集委員による助言
※こちらで扱う論文は第2回と同じものです。	
※こちらの希望者は、「自作論文」を4部ご持参下さい。	
質疑応答	
個別相談（希望者）	

《申込方法》 事前申込を受け付けます。 事前締切： 8月8日（水）正午まで

（当日参加も可能ですが人数の把握・準備のため、なるべく事前申し込みをお願いします。）

問合せ・申込み先：Eメール ihromita@gmail.com 電話 090-4478-5729（紀要編集委員 石森）